

ご意見・ご質問等一覧表

	項目	意見等	事務局回答
公益社団法人京都府栄養士会 切明委員	1.個人の行動と健康状態の改善 (1)生活習慣の改善 ①栄養・食生活	行政・関係団体の行動目標について ○「よりよい食生活のための社会環境の整備」と記載されているが、具体的にはどのような施策か。	社会環境や生活環境の変化に伴い、食に対する価値観やライフスタイルは多様化しており、個人や家庭の努力のみでは健康的な食生活の実践が困難となっています。 外食やお惣菜の利用など中食が進む中、適切な食を選択する環境の整備のため、健康に配慮したメニューの提供や栄養成分表示など健康づくり・食育アライアンス加入団体等の食品関連事業者との連携・支援が必要だと考えます。
宇治市食生活改善推進員協議会 「若葉の会」 長岡委員	1.個人の行動と健康状態の改善 (1)生活習慣の改善 ①栄養・食生活	行政・関係団体の行動目標について ○「よりよい食生活のための社会環境の整備」と記載されているが、これを最終評価結果欄に記載のある「朝食を毎日食べている人の割合が減少」に関連するものとしてとらえると、そもそも、朝ご飯を毎日食べていない人について、その理由が原因が明らかでないにもかかわらず、どのような理由や原因を想定して「社会環境の整備」という表現になったのか。また、具体的にはどのような施策が考えられるのか。	文部科学省の資料では、朝食を欠食する理由の中には、「時間がないから」「食欲がないから」「食べたくないから」「いつも食べないから」などが多く、身体活動量、夕食を食べる時刻や夜食の有無、就寝時刻、睡眠時間など多くの生活習慣が関係しているとされています。 より多くの人が、朝食に限らず、健康的な食生活に関する知識を得て、それを選択し、実践できるための「よりよい食生活のための社会環境の整備」が必要だと考えます。 具体的には、健康づくり・食育アライアンス加入団体等食品関連事業者との連携・支援により健康に配慮したメニューの提供や栄養成分表示、妊娠期から高齢期まで関係団体と連携した生涯を通じた正しい食生活についての知識の普及啓発が必要であると考えます。
	3.ライフコースアップ ローチを踏まえた健康づくり (1)子ども	行政・関係団体の行動目標について ○最終評価結果として、「朝食を食べている子ども・小学生の割合は減少傾向」との記載があるが、これに対する行政・関係団体の行動目標をより現実的で直接的な事柄を背景とした表現にしたほうが分かりやすいと考える。	朝食は、脳の働きを高めたり、体温を上げ活動を活発にするなど、生活リズムの基礎をつくるのに重要なものです。現宇治市健康づくり・食育推進計画においても、少年期のめざす姿を「早寝・早起き・朝ごはん正しい生活習慣の基礎を身につけよう」とし、特に生活習慣の基礎が作られる乳幼児期から少年期にかけて朝ごはんの摂取を推進しています。 引き続き、行政・関係団体の行動目標に設定し推進してまいりたいと考えます。
京都府宇治久世歯科医師会 中村委員	1.個人の行動と健康状態の改善 (1)生活習慣の改善 ⑥歯と口腔の健康	令和5年度最終評価結果について ○「むし歯のある3歳児」や「むし歯のある小中学生」の割合は減少し、目標値を達成との記載 ⇒極端に口腔状態が悪い児童もあり、二極化している。 ○「60歳代で24本以上、80歳代で20本以上自分の歯がある人」の割合も増加し、目標値を達成 ⇒目標値を達成しているが、全国的に頭打ちになっている。 市民の行動目標について ○定期的に歯科健診を受けよう ⇒特にPMTC(歯科医師、衛生士など専門家による徹底した歯面清掃)の実施 行政・関係団体の行動目標について ○歯周病やオーラルフレイルなど、歯と口腔の健康に関する知識の普及啓発 ⇒特に妊婦教室での普及啓発	特に3歳児、小学生のむし歯については、家庭環境等の生活環境が大きく影響してくると思います。 ご提案のとおり変更予定です。 PMTC(歯科医師、衛生士など専門家による徹底した歯面清掃)はう蝕や歯周病になりにくい環境を整えることができるため、市民周知が必要だと考えます。 PMTCについても計画に掲載したいと考えます。 妊娠期から継続した歯と口腔の健康に関する知識の普及啓発を実施していきたいと考えます。 ご提案のとおり変更予定です。